

記者発表資料

九州北部豪雨時における大山ダム流域の降雨状況と 試験湛水中の大山ダムの効果について

平成24年7月13日から14日にかけて九州北部地域に発生した梅雨前線に伴う降雨により、大分県日田市大山町に建設中の大山ダムの流域では、総雨量502.2mm（流域平均）を記録しました。また、大山ダムの貯水池への洪水流入量は最大324.6立方m/秒に達しました。

大山ダムは、試験湛水を実施中でしたが、ダムへ流入する洪水を貯留し、ダム下流河川の水位を低下させる効果を発揮しました。ダム下流の川平橋^{かわひら}水位観測所地点（赤石川/日田市大山町西大山地先）において、大山ダムが無かった場合に比べて、当該地点の河川水位を約2.2m低下させる効果があったと推定されます。

貯水位の状況については、独立行政法人水資源機構大山ダム建設所HP（<http://www.water.go.jp/chikugo/oyama/>）で確認出来ます。

試験湛水とは、通常の管理に移行する前に、洪水時最高水位以下の範囲で、ダムの貯水位を上昇及び下降させ、ダム、基礎地盤及び貯水池周辺地山の安全性を確認するため実施しているものです。

平成24年7月19日



独立行政法人 水資源機構大山ダム建設所

発表記者クラブ

日田市政記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 大山ダム建設所 総務課長 ^{こばやし} 小林 ^{まさき} 真幸
住 所：大分県日田市大山町西大山482-1
電 話：0973(52)3300

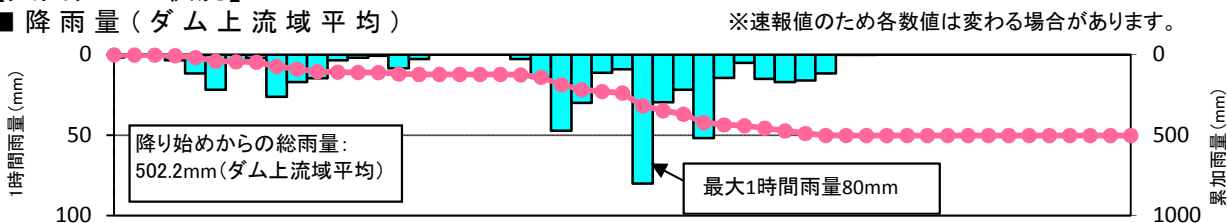
九州北部豪雨時における大山ダム流域の降雨状況と試験湛水中の大山ダムの効果について

大山ダムの流域では、平成24年7月13日から14日にかけて九州北部地域に発生した梅雨前線に伴う降雨により、総雨量502.2mm(流域平均)を記録しました。また、大山ダムの貯水池への洪水流入量は最大324.6立方メートル/秒に達しました。

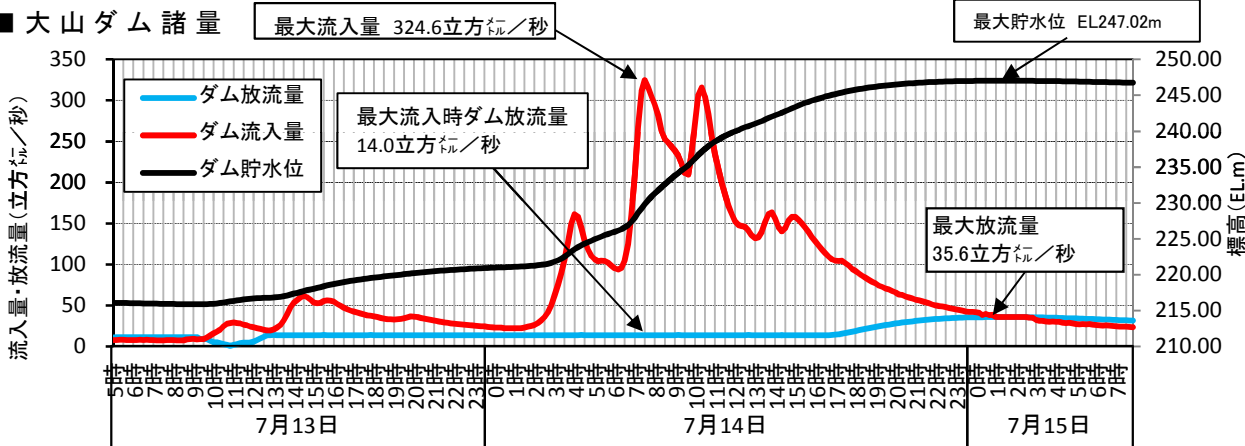
大山ダムは、試験湛水を実施中でしたが、ダムへ流入する洪水を貯留し、ダム下流河川の水位を低下させる効果を発揮しました。ダム下流の川平(かわひら)橋水位観測所地点(赤石川/日田市大山町西大山地先)において、大山ダムが無かった場合に比べて、当該地点の河川水位を約2.2m低下させる効果があったと推定されます。

【大山ダムの状況】

■ 降雨量(ダム上流域平均)



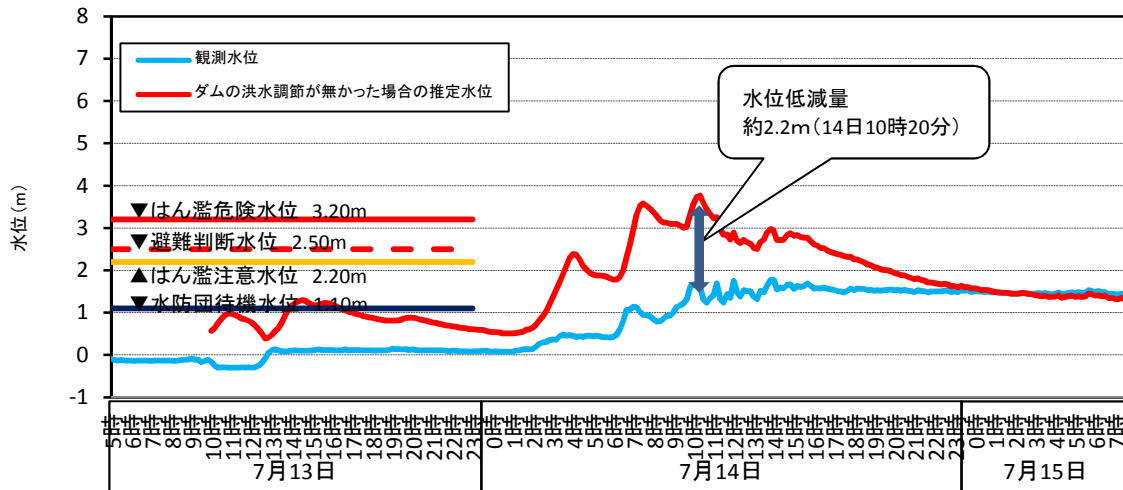
■ 大山ダム諸量



※試験湛水中であり、ダム貯水位が低かったため、ダムの空き容量(平常時最高貯水位以下)を含めて873万立方メートル(福岡Yahoo! JAPANドーム約5杯)を貯留しました。

■ 川平橋地点の状況

〔川平橋水位観測所(日田市大山町西大山地先) 筑後川河口から約83km上流〕



参考説明資料

【①大山ダムの洪水時の放流概要図】

■日田市大山町の川平橋水位観測所の状況



■河川の水位状況[川平橋水位観測所(日田市大山町西大山地先)]

